



令和8年度

小学生すくすくウォッチ 結果概要報告

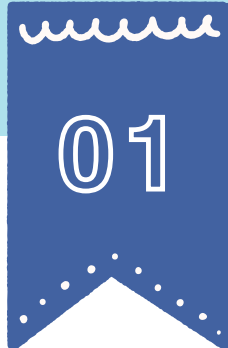
交野市教育委員会
学校教育課



報告内容

- ① 調査概要
- ② 昨年度の結果について
- ③ 今年度の結果について
- ④ 今後の取組みについて





1 目的

子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力及び問題発見・解決能力等を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につけることを目的とする。

2 実施日

令和8年4月22日（水）～4月30日（木） ※期間内で学校が実施日を決定

3 実施内容

- ・5年生：国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
- ・6年生：わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
- ・教員：アンケート

4 各教科・わくわく問題（教科横断型問題）及びアンケートについて

・教科問題について

当該学年までに定着すべき学習内容で、基礎的な知識及び技能とともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を問う問題等

・わくわく問題（教科横断型問題）について ※5・6年生共通問題

特定の教科の枠にとらわれず、複数の文書や資料から情報を読み取ったり、問いに対して判断や理由を明確にして自身の考えを表現したりする力を問う問題等

・アンケートについて

児童自身の目標に向かって頑張る力、気持ちをコントロールする力、人と関わる力、次の学びや生活にいかす力、好奇心などに関する内容や、学習状況、学級や授業等に関する意識等を問う

基礎基本の定着から「根拠の構築」へ

昨年度の課題（振り返り）



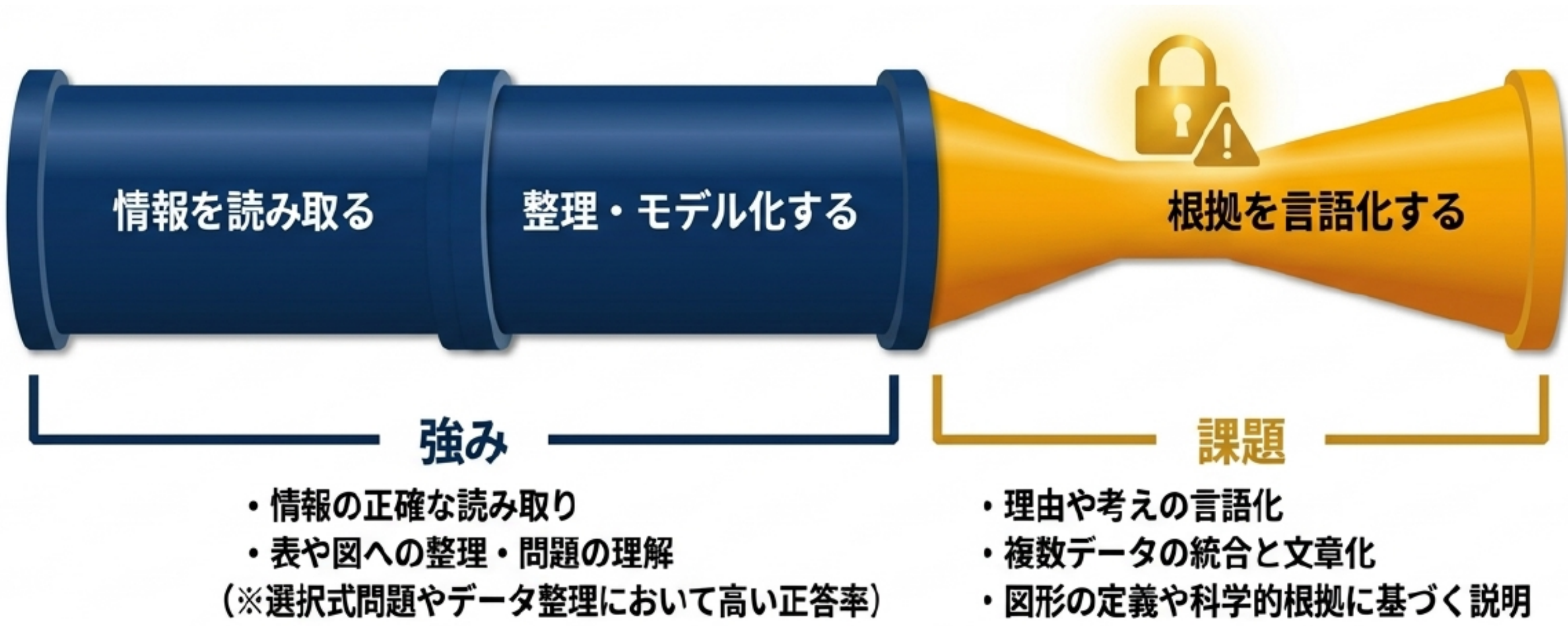
- ・国語：主語、述語、修飾語の確実な習得
- ・算数：グラフの正確な読み取りと表記
- ・理科：根拠に基づく予想や仮説の設定

（※これらに対する現場の指導は着実に進展）

今年度（令和8年度）の
調査概要と現在地

- ・調査対象：小学5・6年生
- ・全体の傾向：情報の整理や問題理解（インプット）に確かな強み。
- ・次なる壁：「なぜそうなるのか？」理由や考えを言語化・文章化する（アウトプット）力に共通の課題。

他者に「論理的に説明する」段階へ



全教科共通のミッション：「なんとなく解ける」状態から、「根拠をもって説明できる」状態への引き上げ。

「主語・述語の対応」と「文脈の正確さ」

NotebookLMにより生成

分析結果



強み

- ・選択式問題（指示語・接続語・言葉遣いなど）の正答率が高く、基礎基本は定着。

課題

- ・主語に対応した述語を自ら正しく書く記述力の不足。
- ・文脈に応じた漢字・表記の正確さ。



具体的な手立て(改善策)



手立て：5分演習の日常化

- ・文末がねじれやすい不完全な短文を「補正させる」短い演習を日常的に反復し、文末表現を定着させる。

手立て：学校全体での段階的实施

- ・他教科の授業でも「主語と述語の対応」を意識させる。
- ・「～だからです」という理由の書き方を、全学年・全教科の共通フォーマットとして徹底。

© NotebookLM

「感覚的な正解」から「根拠のある説明」へ

NotebookLMにより生成

分析結果



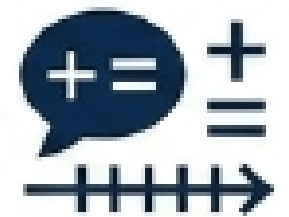
強み

- ・全体正答率55.0%（大阪府平均+3.1ポイント）と良好。
- ・「データの読み取り」「式化（モデル化）」で大きな成果。

課題

- ・図形の定義に基づいた理由の言語化。
- ・単位換算・割合の概念理解（量感の欠如）。

具体的な手立て(改善策)



手立て：1文記述の反復（図形）

- ・形の名前に答えて終わりにせず、「なぜなら～だから」と定義(平行など)を用いて、口頭またはノート1文で記述させる。

手立て：量感の育成（単位・割合）

- ・「体育館の広さ」など身近な空間と結びつけた単位換算フラッシュ問題の実施。
- ・数直線を用いて「基準となる1」を視覚的に意識させる指導の定着。

© NotebookLM

データから、科学的根拠に基づく文章化へ

NotebookLMにより生成

分析結果



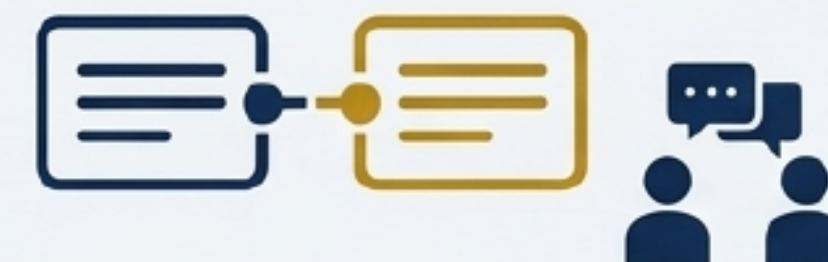
結果データ

- ・5年生は大阪府平均+0.7pt、6年生は-1.3pt。

課題

- ・基礎知識の誤り（太陽の動き、昆虫の体のつくり等）。
- ・複数の条件やデータを統合して文章化する力の不足。
- ・科学的な言葉やデータを用いて根拠を説明する経験の欠如。

具体的な手立て （改善策）



手立て：論理フォーマットの活用

- ・振り返りで「～は〔条件1〕だが、〔条件2〕ではない」という型を使わせる。（例：銅は電気を通すが、磁石にはつかない）

手立て：用語整理のペアワーク

- ・混同しやすい用語（水蒸気と湯気、頭・胸・腹など）を単語カードや図で整理し、正しく使って説明し合う活動を取り入れる。
- ・日常の疑問を学習した理科用語で解説し合う時間を設ける。

NotebookLM

論理的に説明する力へ

NotebookLMにより生成

分析結果



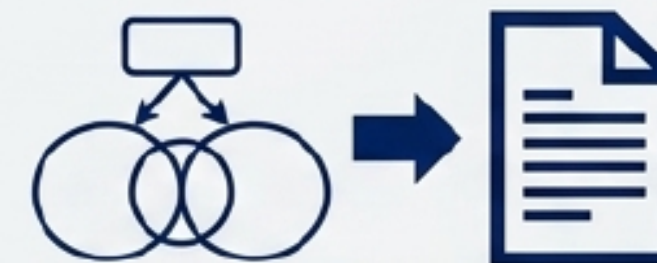
強み

- ・情報から条件を読み取り、表や図に整理・モデル化する能力は良好。

課題

- ・整理した情報や自分の工夫（意図）を、理由やメリットと結びつけて「論理的な文章で説明する力」の不足。

具体的な手立て （改善策）



手立て：「書く前」の思考の整理

- ・いきなり文章を書かせるのではなく、思考ツールを用いて、工夫した点とそのメリットを視覚的に整理させる。

手立て：理由付けの日常化

- ・他教科と同様、各教科の振り返りや発言場面において「なぜその結論になるのか」「どう工夫したのか」という根拠を必ず述べる活動を日常化する。

NotebookLM

小見出しを追加

①めあてを意識して学習している **83.2%**（府85.3%）

②学んだことについて振り返りをしている **77.9%**（府75.9%）

③黒板に書かれたことをノートに写している **94.5%**（府95.4%）

④大事だと思ったことをノート等にも書いている **70.0%**（府74.6%）



⑤話し合いをするとき、自分の意見と他の人の意見を比べている **73.2%**（府75.2%）

⑥話し合う場面で自分の考えを深めたり、広げたりしている **70.7%**（府72.4%）

⑦授業でタブレットを使って必要な情報を調べる（週1回以上） **83.1%**（府71.2%）

⑧授業でタブレットを使って自分の考えを書き込んだり
友だちと意見を交流したりする **76.3%**（府54.9%）

教科等横断的に
「言語化」や「根拠提示」の指導を

教科	①言語化の壁	②全校共通の「型」	③授業での実践
国語	主述のねじれ・理由の記述	「～だからです。」	短文補正の5分演習・ 全教科での理由記述
算数	図形の定義・根拠の説明	「なぜなら～だから」	口頭またはノートでの 1文記述の徹底
理科	複数条件の統合	「～はAだが、Bではない」	振り返りでの活用・ ペアワークでの説明
わくわく	工夫や意図の論理的説明	思考ツールによる構造化	発言場面での 理由付けの日常化

まとめ

「なぜ」という問いが
思考を言葉に変える



ループリック評価

考えや理由の
言語化

思考ツールの
活用

振り返りによる
メタ認知





確かな学力を生きる力に



令和8年度 小学生すくすくウォッチ 結果概要報告

交野市教育委員会
学校教育課